

平成28年度 綾瀬市立春日台中学校 学校関係者評価報告書(様式)

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	学校経営の方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで学ぶ人 ・精神と身体の健康な人 ・責任を重んじる人 ・心豊かであたたかい人 	<ul style="list-style-type: none"> (1)校内研究の推進 (2)特別活動や部活動の活性化 (3)生徒の教育的ニーズの把握とその支援体制の充実 (4)学校組織の協働態勢作り 	
今年度の重点目標		
<ul style="list-style-type: none"> (1)学習する習慣を身につけさせる (2)自他ともに大切にすることを育てる 		
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「すすんで学ぶ人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	<p>学習意欲についての肯定的な評価が多く、大多数の生徒は意欲的に授業に参加しています。「すすんで学ぶ人」を育成するには、学習内容の基礎基本を十分理解させることが大切であると考え、授業改善に取り組みました。</p> <p>今後も、学習指導方法や教材等を工夫して、わかる授業を心がけるとともに、家庭と連携して家庭学習の習慣化と家庭での過ごし方について指導していきます。</p>
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	<p>多くの生徒が、学校行事や生徒会活動・部活動などに積極的に参加しています。</p> <p>今後も、これらの活動を活性化させ、一人ひとりの居場所を作るとともに、多くの生徒が達成感・充実感を味わえるように努めていきます。</p>
3 児童・生徒指導	学校は、「心豊かで、あたたかい人」を育てる指導を積極的に行っている。	<p>様々なアンケート結果から、友人との良好な人間関係作りを意識している生徒が多いことがわかりました。</p> <p>今後も、よりよい人間関係作りのための取組を行い、「心豊かであたたかい人」を育てる指導に努めます。</p>
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	<p>「学校生活に満足している」生徒は8割程度と、大多数の生徒が満足している様子がみられました。</p> <p>今後は、「学級集団アセスメント」で不満足群にいる生徒への見守りや、要支援群にいる生徒に面談を実施し、学年、学校全体でよりよい集団作りのための課題に取り組んでいきます。</p>
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	<p>「スクールアンケート」や教育相談、「学級集団アセスメント」の結果を職員が共有し、いじめの早期発見・再発防止に努めました。また、「いごちのいいクラスを作ろう ～わたしたちがすること 9の約束～」を教室に掲示し、いじめ防止の指導に役立てています。生徒会でもいじめアンケートを取り、その結果をクラス掲示し、いじめ防止の活動を行いました。</p> <p>今後も、保護者会や学校通信などを利用し、学校での取組を保護者に伝えていきます。</p>

6 保健管理	学校は、「精神と身体の健康な人」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	今年度は、8割程度の生徒が自身の健康や体力に、気をつけていると回答しています。 今後も、健康診断や新体力テストの結果を活用するとともに、生徒の心身の健康・安全の確保に努めていきます。また、日々のけがや体調不良、心の健康にも留意し、学級担任や養護教諭、スクールカウンセラーが保護者との連携のもと、適切な対応を心掛けていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設設備の点検・整備に取り組んでいる。	今年度も、生徒の快適な学校生活の保持のために校舎施設・設備の総点検をし、修理・改善を徹底しました。また、PTA校外指導委員会との連携を強化し、登下校時の安全指導の効率化を図りました。 今後も、PTAや諸機関との連携を深め、通学路や校舎設備の保守・安全に常に心掛けていきます。また、不審者情報については警察に通報し、迅速に対応していきます。
8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	生徒の困り感を聴いて一人ひとりに合った支援を探り、授業・学級経営の改善、教室内学習支援、個別支援など、全教員で取り組み、成果をあげました。 今後も、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の取組を継続しつつ、集団に適應できるように指導していきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営になっている。	学校教育目標達成のため、各グループとも総括教諭をリーダーとし、各職務を円滑に進めることができました。 今後も、現状に満足することなく、より機能的な学校運営組織が構築されるよう、グループ間の連携を深め職場の活性化に努めていきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	校内研究のサブテーマである「思考力・判断力・表現力の育成をするための指導と評価の工夫」達成に向け、外部講師の指導を受けながら積極的に授業研究に取り組み、言語活動の効果を検証し、授業力の向上に努めました。 今後は、さらに向上させるとともに様々な教育課題に対応するための研修を企画、実施し、見識を深めるよう努めていきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	「学校教育目標」や「重点目標」で示した生徒の成長を目指して教育活動を行いました。 今後も、すべての教育活動を通して、調和のとれた人格の形成を目指します。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	今年度は、生徒の健全育成を図るために、諸たよりを通して情報を積極的に発信しました。また、保護者や地域の理解が十分に得られるよう、PTA活動や地域での活動を通して連携を深めてきました。 今後も、学校行事やPTA行事への積極的な参加を呼びかけ、引き続き保護者・地域との連携に努めていきます。

【学校関係者評価委員会からの意見及び改善策】

- ・肯定的な評価が多く、全体的に成果は出ている。学校側は教師が高い意識を持って教育活動にあたり、生徒もすすんで学び、充実した学校生活を過ごしていることがわかった。
- ・取組の4.の「学級集団アセスメント」や「ソーシャルスキルトレーニング」、「グループエンカウンター」などは保護者にとってわかりにくいことばなので、わかりやすく説明をする機会を設けていきたい。また、取組の5.の「専門機関」や「9の約束」についても同様である。
- ・取組の5.「学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。」についてのアンケートでは、保護者と教職員の間で結果に大きな差があるが、学校の取組としては毎学期の教育相談、毎月のスクールアンケートなどをもとに毎週の情報交換会で早期に対応ができる態勢を整え、心配な生徒についてはSCと相談の上必要に応じてSSW、適応指導教室、その他の専門機関と連携を図っており、これらのことが保護者には十分に伝わっていないこと、また授業参観などの出席率から判断すると保護者の学校教育に対する関心がうすいことなどが、その原因ではないかと考えられる。学校としては、道徳の公開授業や生徒会の取組を今後も引き続き行うとともに、これらの取組が十分届くよう、学校だより、学年だより、懇談会の機会を活用して保護者に発信していく必要がある。